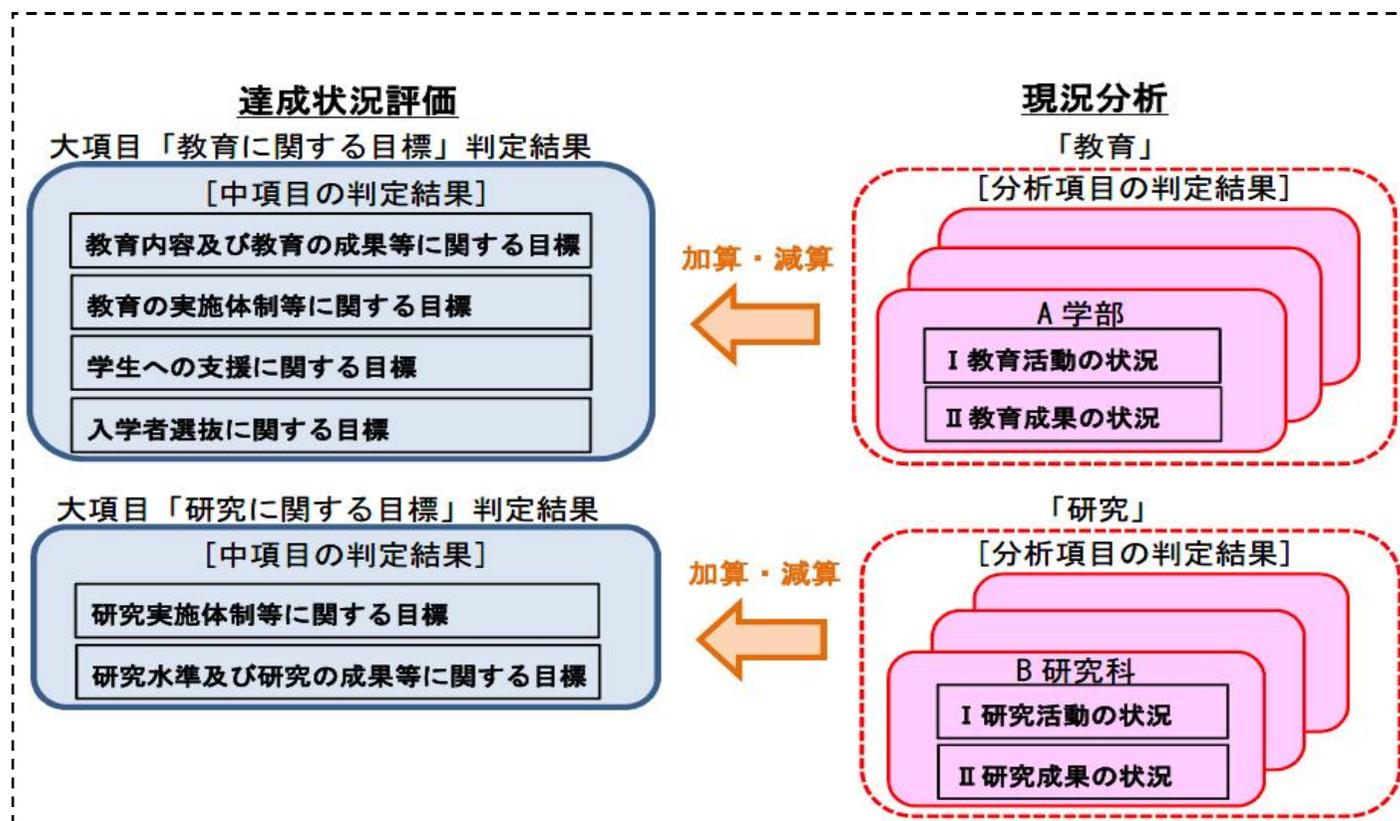


第3期達成状況評価における現況分析による加算・減算

1. 達成状況評価の段階判定への積極的な活用について

- 文部科学省国立大学法人評価委員会からの当機構への要請において、中期目標に関する達成状況の評価に当たっては、学部・研究科等の現況分析結果を十分に活用することが求められていることを踏まえて、現況分析結果の段階判定を達成状況評価における段階判定に活用する。
- 具体的な活用イメージは以下のとおり。大項目「教育に関する目標」及び「研究に関する目標」の段階判定において、それぞれの中項目判定の平均値に、前者には現況分析の「教育」に係る分析項目の段階判定、後者には「研究」に係る分析項目の段階判定による加算・減算を行う。



2. 具体的な加算・減算の内容

【教育】

達成状況評価

当該法人における
大項目「教育に関する目標」
の中項目の平均値

+

現況分析：「教育」

当該法人における
(Ⅰ 教育活動の状況)、
(Ⅱ 教育成果の状況)
の全判定結果の平均値 - 2^{※1}

× 係数 0.5^{※2}

【研究】

達成状況評価

当該法人における
大項目「研究に関する目標」
の中項目の平均値

+

現況分析：「研究」

当該法人における
(Ⅰ 研究活動の状況)、
(Ⅱ 研究成果の状況)
の全判定結果の平均値 - 2^{※1}

× 係数 0.5^{※2}

※1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定（相応の質にある）が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

※2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。